



# 特別活動及び総合的な学習の時間における 学習者主体の学びに関する考察

——予定調和的でない学びによる学習者主体の尊重



## はじめに

平成29年度告示の学習指導要領<sup>1)</sup>では、主体的・対話的で深い学びの授業改善が求められている。主体的な学び、つまり学習者主体の学びは古くから求められているが、今、なぜ、改めて注目されているのであろうか。

オックスフォード大学教授の荻谷(2020)は、主体性が無くてもできること、つまり指示されたことをやる仕事は、近い将来AIに変わられてしまう可能性があり、一方で課題を見つけて、必要なものを0から生み出すのは人間しかできないこと。そして、人間としての能力を最大限活かすためにも、主体性は必要だと述べている。<sup>2)</sup>このように、AI時代と呼ばれる中、自ら問題を発見し、その問題を解決していく学習者主体の授業を行うことの必要性が高まっている。

今、社会的に注目され、世界的に取り組むべきものが国連の持続可能な開発目標・SDGsである。そのSDGsの推進のためには、持続可能な開発のための教育(ESD)が不可欠である。そのESDについて、聖徳大学の永田(2015)は、教師主体の知識伝達型の教育から、学習者主体の変容型の教育への移行を訴えている。<sup>3)</sup>ここでも、学習者主体の学びの必要性が示されている。

しかし、主体的な学習の必要性は最近取り上げられるようになったわけではない。平成元年改訂の学習指導要領・総則には、「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。」<sup>4)</sup>とし、その中で、個性の尊重と関連づけて主体的な学びの重要性を示している。

現行の学習指導要領において主体的・対話的で深い学びの授業改善を求められていることは、30年近くの間、

主体的な学びが十分に実施されてきていなかった、もしくは、時代の求める主体的な学びに達していなかったと読み取ることができる。教師は学習者の主体性を尊重してこなかったのであろうか。

教師主導の授業として典型的なのが一斉指導型の授業である。西川(2019)は、学校制度創設当時の状況を考えると、「指導する教師の数や授業を受ける児童生徒の数を考えると、一斉指導型の指導はやむを得なかった」と述べている。(p.43)<sup>5)</sup>確かに、知識を伝達することをねらいとしている授業では、一斉指導型は効率的な授業であったはずである。しかし、その後、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図ることをねらいとしながらも、一斉指導型の授業が実施され、学校制度創設当時と教育方法が変わっていないと言えるかもしれない。

そこで、本稿は、そもそも主体的な学びとは、学習者主体の学びとはどのような学びなのか改めて考え、なぜ、これまでの教育が学習者主体の学びに十分につながらなかったかを検討していく。具体的な学習内容に規定がなく、学習者の主体的な学びを実施しやすいと考えられる、特別活動と総合的な学習の時間に絞って分析を行い、学習者主体の授業づくりについて考察していく。

## 1.

### 学習者主体の学びとは何か

荻谷(2020)は、主体性が教育の場に広がらないことを危惧し、主体性に関する議論が不十分であることを指摘している。<sup>6)</sup>では、学習者の主体性つまり主体的な学びとはどういったものであろうか。

平成29年度改訂の学習指導要領・総則には、主体的な学びを、「学ぶことに興味や関心をもち見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる」としている。(p.77)<sup>7)</sup>確かに、荻谷が心配するように、主体性の示す意味については漠然とした定義づけしか示されていない。

広辞苑によると、主体的とは、「①ある活動や思考などをなす時その主体となって働きかけるさま。②他のもの

に導かれるのではなく、自己の純粋な立場において行うさま。」と記されている。(p.1401)<sup>8)</sup>つまり、他律的にならず、自分から進んで行う様子であるといえよう。

一方、浅海(1999)は心理学の分野から、主体性について研究をしている。その研究の中で、主体性に関して、①好奇心、②積極的な取組、③自己を方向づけるもの、④自己決定力、⑤自己表現の5つの尺度を示している。<sup>9)</sup>好奇心は興味・関心をもつこと、積極的な取り組みは自ら進んで学習や活動を行うことと言い換えることができる。さらに、③自己を方向づけるものは自分なりに方向性を設定すること、見通しをもって学習すること、④自己決定力は自分一人でも自信をもって意志決定すること、⑤自己表現は自分なりの思いや考えを表現することと捉えることができる。

これらをまとめると、学習における主体性とは、学習に興味・関心をもち、学習の方向性を自分なりに設定して、たとえ1人でも自信をもって決定をし、自ら進んで学習に取り組み、見通しをもって取り組むとともに、自分なりの考えを表現することといえるだろう。

## 2.

### 特別活動及び総合的な学習の時間における学習者主体の学び

学習者主体の学びの現状を捉えるために。具体的な学習内容に規定がなく、学習者主体の学びを実施しやすいと考えられる、特別活動と総合的な学習の時間における主体的な学びについて、学習指導要領の内容を中心に検討していく。

#### ○特別活動における主体的な活動

中学校学習指導要領解説・特別活動編(2017)(以下、中学校特別活動解説と記す)では、学級活動について「学級や学校の生活をよりよくする課題を自分事として捉え、解決に向けて自分の意思をもつことができるような活動の過程にする必要がある。」「学級や学校の課題を自分事として捉えるということは、自分は、学級や学校の生活をよりよくするために何ができるかということ考

え、意思をもって実践することでもある。」(p.47)<sup>10)</sup>と課題を自分事としてとらえることの必要性和自分自身の役割について意識することの重要性を説いている。学級や学校の課題を自分事として捉えるということは、主体的に学級や学校の課題について考え、解決のために自分の役割を意識して行動することといえるだろう。

特別活動における学級活動・ホームルーム活動の内容項目は、集団目標の合意形成を主とする内容(1)と個人目標の意思決定を主とする(2)(3)から構成されている。

その中の(1)に関して、中学校特別活動解説では、「合意形成に基づき実践するに当たって、自分自身に何ができるか、何を行うべきかということを主体的に考えて、意思をもつことである。」また、「単に「決まったことだから、やるしかない」という受動的な姿勢ではなく、合意形成に基づき、集団の形成者として、自分の個性を生かして何ができるかを主体的に考えて意思をもって取り組む」と書かれている。(p.48)<sup>11)</sup>(下線は筆者が加筆)この中では、合意形成を行う際や合意形成したものに関して実行する際に主体性の必要性が述べられている。学級や学校の課題を他人事として捉えるのではなく、主体的に自分事としてとらえ・考え・行動することが求められているといえよう。

### ○総合的な学習の時間における主体的な学習

中学習指導要領解説・総合的な学習の時間(2017)(以下、中学校総合解説と記す)の中に示されている目標から主体的な学びについて考えたい。(p.10)<sup>12)</sup>以下その目標の一部である。

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。((1)・(2)略)

(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。(下線は筆者が加筆)

と書かれており、探究的な学習を展開する際、社会参画しようと思う際に、自分の生き方を考えること自体、主

体性が欠かせないと考えることができる。さらに、(3)の学びに向かう人間性等の目標の中に、主体的・協働的に取り組むことが明記されている。

また、同解説の中に、「探究的な学習に主体的に取り組むというのは、自らが設定した課題の解決に向けて真剣に本気になって学習活動に取り組むことを意味している。それは、解決のために、見通しをもって、自ら計画を立てて学習に向かう姿でもある。」と書かれている。(p.13)<sup>13)</sup>つまり、探究的な学習において主体的に取り組むとは、真剣に本気になって学習活動に取り組む、見通しをもって、自ら計画を立てて学習に向かう姿とされている。この記述から、総合的な学習の時間では、単に学習課題に興味・関心をもつだけでなく、高度な主体性が求められていることが分かる。

さらに、中央教育審議会の生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ議論のまとめ(2016)には、「「主体的な学び」とは、学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学びである。」と記載されている。つまり、主体的な学びは、学びの成果を得た時点で学びが終わるのではなく、新たな疑問や興味・関心によって次の学びにつながるような学びと位置付けていることが分かる。<sup>14)</sup>これは、浅海の主体性の5つの尺度にはない視点である。このように、特別活動でも総合的な学習の時間でも、学習者の主体性の必要性が、色濃く目標に反映されていることが分かる。

## 3.

### 特別活動及び総合的な学習の時間における主体的な学びの課題

前節では、特別活動及び総合的な学習の時間は、主体的な学びが重要なねらいになっていることを明らかにしてきた。しかし、一方で、学習者主体の学びを実施する際の課題も見受けられる。

### ○特別活動における課題

学級活動・ホームルームの内容は、集団での話し合いを

重視するものである。一人一人の生徒の主体的なかわりがあり、質の高い話し合いにつながるはずである。しかし、中学校特別活動解説には、「特に中学校、高等学校においては、話し合い活動に関する学校間、教員間の取組の差が著しい」としている。(p.43)<sup>15)</sup> このように、話し合い活動に課題があることを示しており、主体的なかわりができているのか疑問が残る。

また、国立教育政策研究所教育課程研究センターの出版している『学級・学校文化を創る特別活動』中学校編(2015)の中には、指導する教師向けに「学級の様子を確認してみましょう。①学級活動が教師主体になっていませんか、②体験あって学びなし・体験や学びがその場限りになっていませんか、③学級のルールが、教師の決めたものばかりになっていませんか。(p.118-119)<sup>16)</sup> (下線は筆者が加筆)という問いかけの内容文章が掲載されている。

この3つのうち、教師主体を危惧する記載が2つ含まれていることから、特別活動の現状として、十分に学習者主体の学級活動になっていないことがうかがえる。

また、同資料には、生徒主体の話し合い活動を進めるために、主体的に取り組める切実感のある議題や活動テーマを選定することが紹介されている。<sup>17)</sup>

## ○総合的な学習の時間における課題

中学校総合解説の中の内容の取扱いでは、「生徒が自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断するなど、生徒の主体性や興味・関心を十分に生かすことが望まれる。」「そのためにはより質の高い指導が必要である。」(p.16)<sup>18)</sup>と述べ、教師主導の授業と比べて学習者主体の授業の難しさを指摘している。さらに、課題設定や解決方法を教師が必要以上に教え過ぎてしまうことによって、生徒が自ら学ぶことを妨げるような事例や、どのような活動をするのかということに目を向け過ぎるあまり、総合的な学習の時間を通して育成を目指す資質・能力が身に付いているのが見えにくい事例も見られると書かれており、学習者の主体性を生かす方法について理解が進んでいないことも分かる。<sup>19)</sup>

## 4.

### 予定調和的でない活動

前述の荻谷(2020)は、主体性と個人の自由・自立とは切り離せないものであり、教師が求める方向や、多くの生徒の「空気」を読んで忖度(そんたく)する主体性になっていないのではないかと指摘している。<sup>20)</sup> 生徒が教師の求める学びの方向性を選択していく傾向にあるといえるだろう。

さらに、井上(2020)は、「現場では「学び方」の多様性、すなわち「自由」を認めることへの抵抗感もそれなりに強いことも否めない。」<sup>21)</sup>と述べており、学習者主体の学びによって生徒が自由に学ぶことに関して教師の抵抗感があり、そのために主体的な学びが推進されないことを示唆している。

荻谷、井上が指摘している点は、学習者主体の学びは、教師の想定している範疇を超える可能性を秘めており、教師側の学習のねらい・内容・方法に対して学習者の主体性との間にパラドクスが生まれるということである。このことから、教師の意識改革や授業観の転換が必要であると言える。

一方、諏訪(2020)は、持続可能な未来への学びのために、「己のちからで目標を設定し、自力で問題解決をしていく、教師の予定調和的な指導ではない必要がある。」<sup>22)</sup>とし、予定調和的ではない授業の必要性を述べている。

では、その予定調和的ではないとは何であろうか。

「予定調和」は、物事が予想した通り進行して、その結果も予想と変わらないという状態である。つまり、予定調和的でない授業とは、教師主導の授業ではない、教師の予定した通りの結果に収まらないことを示している。

## 5.

### 予定調和的でない学習と活動を実施する際のポイント

生徒一人一人の興味・関心、問題意識を尊重することが主体性にとって大切であるなら、教師が予定調和で授



業を進めると、生徒の主体性が十分に発揮できないといえよう。むしろ、予定調和的でない授業を実施する中で、主体性が育まれると考えることができる。前述したパラドクスを解消する授業の手法として注目できる。

しかし、教師にとってみると、生徒から想定外の学習目標や内容、方法が出されることを考えると、実施するのに抵抗感・困難さを感じるはずである。学習者にどこまで自由に任せるのかを迷うであろう。

予定調和的でない授業を実施する際に参考になるのが、中学校特別活動解説である。そこには、学級活動の合意形成をする話し合いをする際には、「生徒の自発的、自治的な活動とするためには、学校として生徒に任せることができない条件を明確にして指導することが大切である。」(p.47-48)<sup>23)</sup>と書かれている。任せることができない条件として、例えば、個人情報やプライバシーの問題、相手を傷付けるような結果が予想される問題、教育課程の変更に関わる問題、校内のきまりや施設・設備の利用の変更などに関わる問題、金銭の徴収に関わる問題、健康・安全に関わる問題などが考えられると記されている。裏返すと、6つの例示以外には、生徒に任せきることを基本としていることが分かる。教師が主導するのではなく、学習者主体での活動を考えるとき、予定調和的でない学びを展開する際に、とても参考になる内容である。(p.97)<sup>24)</sup>

中学校総合解説では、生徒の関心や疑問を源とする生徒主体の学習活動について、以下のように述べている。<sup>25)</sup>

「関心や疑問から、生徒はどのような活動を求め、展開していきだろうか、と考える。そして、活動の展開において出会う様々な問題場面と、その解決を目指して生徒が行う課題の解決や探究的な学習活動の様相、さらにそれぞれの学習活動を通して生徒が学ぶであろう事柄について、考えられる可能性をできるだけ多面的、網羅的に予測する。」(p.97) この内容から、生徒の発想や活動に関して十分に想定しておく必要があることが分かる。

また、中学校総合解説には、「生徒の学習活動が主体的に連続していくように、適宜、可能な指導や支援を想定し、授業を実施する。」(p.102)<sup>26)</sup>としており、できる限り、学習者の思考や活動を想定しておくことが書かれて

いる。つまり、学習計画を立案する際に、多様な学習展開を考えておく必要があるということであろう。

このように、事前に、学習者に任せることのできない条件を示したり、教師が学習活動について十分に検討し想定したりすることによって、予定調和的でない学習を実現しやすくていいのではないかと考える。

## おわりに

特別活動と総合的な学習の時間を中心に学習者主体の学びについて論じてきた。もともと主体的な学びを目標に設定しているこれらの領域でも、学習者主体の学びには課題があることが明らかになった。教師の主導性と学習者の主体性の関係性を考えたとき、そこにはパラドクスが存在している。今回の研究で、教師は、学習者の主体性に任せることの抵抗感や困難さを感じていることが分かり、今求められているような主体的な学びによる授業改善を推進するためには、教師の意識改革、指導観の転換が必要になることが明らかになった。学習者に学びを任せるためには、学習者の学びの想定を広げて考えておく必要がある。また、学習者に学びを任せる一環として、予定調和的ではない学びの積極的な推進をすべきである。教師の意識改革、指導観の転換のために、学習者の主体性を生かす方法について、教員養成の段階で指導を充実させたり、教員研修等で教員の理解を深めたりする工夫がされることが今後の課題であろう。本研究では、特別活動と総合的な学習の時間に絞って研究を進めてきたが、今後は、他教科に広げて研究を深めていきたい。AI時代に対応し、人間としての能力を活かすためにも、学習者主体の学びの拡大が望まれる。

## 註

- 1) 文部科学省 平成29年度版・中学校学習指導要領 総則, 東山書房 2017, p.77
- 2) 荻谷剛彦「教育改革にひそむ「主体性」「平等主義」という名の落とし穴」『The AsahiShimbun globe news+』, 2020, <https://globe.asahi.com/article/13166629> (2021年11月7日最終確認)
- 3) 永田佳之『国連ESDの10年の成果と課題』(Kindleの位置No.366-369)(Kindleの位置No.383-385). Kindle, (電子書籍), 2015
- 4) 文部科学省 平成元年度改訂・中学校学習指導要領 総則, [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/old-cs/1322457.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/old-cs/1322457.htm) (2021年11月7日最終確認)
- 5) 西川純『個別最適化の教育』学陽書房, 2019, p.43
- 6) 荻谷剛彦、再掲
- 7) 文部科学省 平成29年度版・中学校学習指導要領 総則, 再掲
- 8) 広辞苑・第七版, あーそ, 岩波書店, p.1401
- 9) 浅海健一郎「子どもの「主体性尺度」作成の試み」『人間性心理学研究』日本人間性心理学会, 第17巻2号, 1999, p.16
- 10) 文部科学省 平成29年度告示 中学校学習指導要領解説 特別活動編, 東山書房, 2017, pp.47-48
- 11) 同上
- 12) 文部科学省 平成29年度告示 学習指導要領解説 総合的な学習の時間, 東山書房, 2017, p.10
- 13) 文部科学省 平成29年度告示 学習指導要領解説 総合的な学習の時間, 東山書房, 2017, p.16
- 14) 生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ議論のまとめ(たたき台・イメージ)〔総合的な学習の時間〕, 2016, [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/064/siryo/attach/1379020.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/064/siryo/attach/1379020.htm) (2021年11月7日最終確認)
- 15) 文部科学省 平成29年度告示 中学習指導要領解説 特別活動編, 東山書房, p.43
- 16) 国立教育政策研究所教育課程研究センター『学級・学校文化を創る特別活動』中学校編, 東京書籍, 2015, pp.118-119
- 17) 同上
- 18) 文部科学省 学習指導要領解説・総合的な学習の時間, 東山書房, 2017, P16
- 19) 文部科学省 平成29年度告示 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間, 東山書房, p.47
- 20) 荻谷剛彦, 再掲
- 21) 井上大樹「「アクティブラーナー」の基本的資質と学習者の自由」『教師教育研究』札幌学院大学教職課程委員会編, 第35号, 2020, pp.63-67
- 22) 諏訪哲郎他3名『学校3.0×SDGs』株式会社キーステージ 21, 2020, pp.33-35
- 23) 文部科学省 平成29年度告示 中学習指導要領解説 特別活動編, 東山書房, 2017, pp.47-48
- 24) 同上
- 25) 文部科学省 平成29年度告示 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間, 東山書房, p.97
- 26) 文部科学省 平成29年度告示 中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間, 東山書房, p.102